

# 東大和三中だより

平成 30 年 5 月 17 日

5 月号 (No. 2)

発行 東大和市立第三中学校

〒207-0016 東大和市仲原 2-7

TEL 042-564-5411

## 「言葉」の重み

東大和市立第三中学校長 井上 敬夫

新学期がスタートして 1 ヶ月が過ぎました。三中生のみなさんは、それぞれに目標や決意を持って生活してきたことでしょう。しかし、ゴールデンウィークを経て中学校の生活にも慣れが出てきたところで、4 月当初の気合いがなくなっている人がいるかもしれません。

5 月 9 日(水)～11 日(金)にかけて、2 年生は移動教室として栃木県大田原市で農業体験を行いました。小グループに分かれて民泊しながら、体験先の農家のお手伝いをしました。それぞれの農家によって農作業の内容には違いがある中で、どの生徒も楽しそうに取り組んでいる姿が印象的でした。私は、車に乗せてもらって各農家を巡回していました。どの農家の方々も「よく働くいい子ども達ですね。」と褒めていただきました。「挨拶が元気よくて気持ちのいい子ども達ですね。」とも言っていただきました。体験先で三中生のことを褒められ続けていると、聞いている私も嬉しくなりました。

実は、農業体験に出かける前に、初めてお会いする方々ばかりの 2 泊 3 日、きちんと挨拶をするのが大事だ、という話をしました。おそらく 2 年生のみなさんはそれを実行したのだと思います。気持ちの良い挨拶からスタートして、農家の方々も温かく迎えつつ、優しい言葉で接してくれた。お互いの思いやりで満ちた言葉のやりとりが、前向きな空間を創り上げたのだと感じました。

言葉には、とても大きな力があります。昔から「観賞用のサボテンに『おはよう』とか『今日も元気だね』と話しかけていたら花が咲くようになった」という話があります。科学的な根拠があるかどうかは別にして、明るく声をかけることで、ポジティブな感情が芽生えるのは間違いないでしょう。逆に「駄目だ」とか「もう無理」などのマイナスイメージの言葉を吐き続けていくと、気持ちや行動までがネガティブになってしまうものです。

SNS 上のトラブルが社会的に問題になっているのは知っての通りです。ツイッターやラインでの言葉が原因で深刻な事態を招くようなことが、毎日のように報道されています。相手の顔が見えないので、言葉だけが一人歩きしてしまうことから起こるトラブルなのでしょう。言葉にはそれほど力があるのです。

言葉は大事です。人と人とのコミュニケーションは言葉を介して行うものですから、言葉の重みを感じて日々生活してほしいと思います。

# 三中のいじめ防止への取組について

## 1. わたしは、人を傷つけません。

そのために「いのち」と「こころ」を大切にします。

◇「いじめ」は人間にとってもっとも憎むべき行動の一つです。「私はしない」という人が増えればきっとなくなっていくはずです。

◇拳（こぶし）で傷つけるのも暴力です。言葉で傷つけるのも暴力です。暴力はみんなの明るい笑顔を奪います。だから、お互いに相手を大切にしましょう。

上は、前号の巻頭言で紹介しました「Pride2017 誇りある三中の一人であるために守りたい7つの約束」の一番目に掲げられている約束です。

この大切な約束を守るために、三中では、生徒を対象とした「友達とのかかわりに関するアンケート」を実施しています。いじめの早期発見・早期対応・未然防止に向け、各学期に1回ずつ行うものです。実施後、学校として次のような指導をしています。

- ・「自分は、友達からいやなことをされて困っている」「いじめられて困っている人を知っている」という項目に記入のあった全ての生徒に対して、担任が聞き取りをおこなった上で、いやな思いをさせている生徒に指導や説諭をしたり、謝罪をさせ二度と繰り返さないように約束をさせたりする。
- ・遊びの延長、悪ふざけ、からかいなど軽い気持ちでやっている行為が、相手の身になれば、どれほどつらいことかを個々の生徒及び学級に考えさせる。

これらの指導を通して、「自分がされていやなことは、人にしてはならない」という大原則を自覚させ、浸透させます。

また、保護者の皆様にも、同時にアンケートをお願いしています。記述のあったご家庭には、学校がどのような指導を行い、現在はどうのような状況であるか等をお伝えしていきます。

昨年度は、アンケート等を通して、いじめと認知した件数は0件でした。しかし、「いじめの疑いがある」と判断し、経過を見たり、指導を継続したりした上で、都に報告した件数は12件あります。

さて、新聞等の報道でご承知の方もいらっしゃるかと思いますが、いじめの認知件数は、最多の都道府県と最少の都道府県とで30倍以上の開きが生じていることが問題視されています。（文部科学省 平成26年度問題行動等調査 による）。その原因と考えられるのが、「疑いのあるもの」をいじめと認知するかどうかの基準です。三中では、この基準を見直し、「いじめの芽」「いじめの兆候」と少しでも考えられるものは、すべていじめと認知し、今まで以上に「積極的に認知し（当然、件数は増える）、早期に正確な対応をおこなっていく」ことを全職員で共通理解しました。

今後も、学校と家庭とのより一層の連携を図り、いじめ防止に向けた対策を推進して参ります。三中のいじめ防止について、またそれ以外のことでも、日頃気付かれたことなどありましたら、何なりとお知らせください。

# お世話になりました。

4月20日(金)に離任式が行われました。離任した先生の言葉をお届けします。

残念ながら欠席した小幡 若子 先生（音楽科・元3の2担任・合唱部顧問）からのメッセージです。

「この4月より非常勤教員として府中市立白糸台小学校に異動し、小学1年生と5年生の音楽を担当しています。今まで中学生の声を聴き慣れていたので、声変わりしていないソプラノ集団の小学生の声に、きれいだけど重量感が足りないなあと感じています。たった1年の三中での生活でしたが、3年担任として笑顔で卒業式を迎えられたこと、合唱部とのコンクールなど思い出がいっぱいつまった1年でした。ありがとうございました。合唱は「心のハーモニー」と言われますが、『声』を出さなければ始まりません。校歌など、これからもしっかりと歌ってください。三中の良い伝統を受け継ぎ、さらなる発展を祈っています。」

## 久保口 優喜 先生 保健体育科・元1の3担任・陸上部顧問



初任で東大和三中に勤務し、4年が過ぎました。職場の皆様、保護者の皆様には、数えきれないほどご支援いただき、大変感謝しております。おかげさまで生徒にも恵まれ、笑いあり感動ありの濃い日々を過ごすことができました。一つ一つの出来事を具体的に語ろうとするたび、涙がこぼれそうになります。成長を間近で見ることができるというのは素晴らしいことですね。この経験を糧に新しい職場でも頑張っていく所存です。本当にありがとうございました。

## 西澤 隆 先生 社会科・元2の3担任・生活指導主任・野球部顧問



「誇りある三中」の生徒の皆さん、保護者の方々、先生方、新年度の新しい環境のもと、自分らしく夢をもって良好なスタートを切ることはできたでしょうか。

私は、同じ市内ですが新天地で三中の素晴らしさを改めて実感しながら、三中に負けないう中学校を目指して、日々教育活動にあたっています。

三生生の皆さんに最後まで熱望しながら実現できなかったこと、それは「学力の三中」です。「学力」という力は、自分の可能性を高め、自己実現への大切な力です。学力を身に付けてほしいと願っています。

## 阿部 光一朗 先生 元通級指導学級担任・陸上部顧問



1年間という短い間でしたが、大変お世話になりました。三中の皆さんは、あいさつをしっかりとし、とても心さわやかにしてくれるというのが1年間の印象です。私は、4月から上板橋三中に異動しました。皆さんのこと、陰ながら応援していきます。

「明日に向かって走れ！跳べ！！ そして、いつも心に優しさを」



# 2年移動教室特集



5月9日（水）～11日（金）、栃木県の大田原市に行き、農業体験をしてきました。スローガン「めざせ 農業マスター ～一回り成長して～」のもと、たくさんの体験を通して、成長してきたようです。



小雨の降る中、出発しました。ステキな3日間になりますように。



初日の午後、田植えの様子。水が冷たく、腰もつらいでしょうが、がんばります。



入村式は町の体育館で。市や町をあげての歓迎をしてくださり、ありがとうございます。



お世話になる農家の方と対面。3～5人のグループで、全部で40のお宅に分かれて生活します。



2日目の朝10時頃。雨が降っているので、休憩中。農家らしい室内の造り、こたつがあたたかそう。



唯一の酪農家。おそろいのつなぎを着て、牛の世話をします。



農家の方のお孫さんたちと遊ぶ。すっかり仲良くなりました。



普段は機械で行う耕す作業ですが、特別にくわを使ってやりました。



収穫した大根を担いでポーズ。午後には、じゃがいも掘りだそうです。



その他の場面は、「三中日記」でたくさん紹介しています。ぜひご覧ください。